

市議会だより

12月定例会

平成25('13)年3月1日発行

桶川市の将来を担う新成人



主な内容

条例等の議案審議、提出
議案一覧ほか

2～3ページ

一般質問 (17人)

4～12ページ

委員会報告ほか

13～14ページ

◆ 12月定例会日程 ◆

- 12月3日 開会、市長の行政報告、委員会の委員長報告、決算特別委員会の委員長報告・質疑・討論及び表決、市長提出議案の上程及び説明、市長提出議案の質疑及び委員会付託
- 7日 総務常任委員会
- 10日 民生経済常任委員会
- 11日 建設文教常任委員会
- 12日 一般質問 5人 (大隅・渡邊・保坂・臼田・岩崎)
- 13日 一般質問 5人 (仲又・高野・新島・江森・加藤)
- 14日 一般質問 5人 (糸井・町田・島村・相馬・佐藤)
- 17日 一般質問 2人 (永野・北村)
- 19日 市長提出議案の委員長報告、質疑・討論及び表決、市長提出議案の質疑・討論及び表決、閉会

議案審議の条例等

桶川市教育センターが設置されました

平成24年12月定例会は、12月3日から12月19日まで開催されました。今定例会では、市長提出議案9件が上程されたほか、9月定例会で継続審査となっていた5議案とあわせ、14議案が審議されました。結果、9件が原案可決、5件が原案承認となりました。

桶川市教育センター 設置及び管理条例

教育相談所の移転に伴い、これまでの適応指導・教育相談業務を継続するとともに、新たな業務を加え、教育の充実と振興を図るため、「桶川市教育センター」を上日出谷に設置するものです。

今回、新たにスクールカウンセラーを置き、相談員や指導員の業務に関し、専門的なアドバイスをしていきます。また、教育相談に関する研修会の実施、教職員や保護者を対象とした講演なども含め、教育相談の充実を図りたいと考えます。

問

これまでと、どう変わるのか。また、教育センター業務で、職員研修や教育に関する研究・振興とは、どんなものを想定しているか。

答

場所は、これまでと比較して大きな通りに近く、相談者や児童生徒の交通の便も改善されます。また、通から奥まっっており、相談者の心理的な面を考えると良い場所であると感じています。

問

利用者数などの件数の見込み、不登校の実態と対応は。

答

昨年度の面接や電話による相談総数は159件、適応指導教室に14人の児童生徒が通級しています。電話相談は大幅に増えるとは考えていませんが、面接相談は増えるの見込んでいます。また、これまで通級しにくかった児童生徒も、数

桶川市暴力団排除条例

市民生活の安全と平穩を確保し、社会経済活動の健全な発展のため、「暴力団を恐れない」、「資金提供しない」、「利用しない」を基本とした、暴力団の排除活動を推進するため、条例を制定するものです。

問

条例制定後、暴力団排除に関わる活動の予定は。

答

今後、条例の周知等を含め、街頭キャンペーンなどを行いたいと考えています。

問

桶川市の暴力団の状況は。

答

市として、現在情報をもっているませんが、今後、密に警察と連絡をとるとともに、市民等からの情報についてもアンテナを高くして、状況把握に努めてまいります。

問

今後、中学校教育についてのプログラムなどについて伺う。

答

学校での非行防止教室の中で取り組めるよう、指示していきます。具体的なことは、年間計画を十分検討した上、考えていきます。

桶川市手数料条例の一部を改正する条例

「都市の低炭素化の促進に関する法律」の施行に伴い、低炭素建築物の認定に係る審査手数料を規定するものです。

問

法律についての説明を。

答

東日本大震災を契機とするエネル

12月定例会議決結果

議案番号	案 件	結果
第35号議案	平成23年度桶川市一般会計歳入歳出決算の認定について	◎
第36号議案	平成23年度桶川市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	◎
第37号議案	平成23年度桶川市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	◎
第38号議案	平成23年度桶川市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	◎
第39号議案	平成23年度桶川市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	◎
第46号議案	平成24年度桶川市一般会計補正予算（第4回）	◎
第47号議案	専決処分の承認を求めることについて（平成24年度桶川市一般会計補正予算（第3回））	◎
第48号議案	桶川市手数料条例の一部を改正する条例	◎
第49号議案	桶川市放課後児童クラブ設置管理条例の一部を改正する条例	◎
第50号議案	桶川市暴力団排除条例	◎
第51号議案	桶川市教育センター設置及び管理条例	◎
第52号議案	埼玉県市町村総合事務組合の規約変更について	◎
第53号議案	教育委員会委員の任命について（岡野 千枝子氏）	◎
第54号議案	教育委員会委員の任命について（佐藤 悦代氏）	◎

注：◎原案可決（承認） △修正可決 ×否決

ギー需給の変化などを踏まえ、都市のエネルギー利用の合理化や地球温暖化防止を目的に制定されました。

問

今までの所得税減税との比較は。

答

所得税の住宅ローン減税の最大控除額が一般住宅300万円なのに対し、低炭素建築物では400万円です。

ただし、長期優良住宅のほうが、税が優遇され

ます。

問 今回の条例改正の対象に、集合住宅も含まれるのか。

答 今回の条例改正は、手数を定める対象は、桶川市で建築確認ができる建物で、木造住宅等いわゆる一般的な戸建て住宅がほとんどです。

問 桶川市放課後児童クラブ設置管理条例の一部を改正する条例

日出谷放課後児童クラブが、日出谷小学校の敷地内に新築、移転することに伴い、同クラブの位置を現在の桶川市大字上日出谷893番地の1から、同885番地の5に改めるものです。

問 指導員の配置状況は。

答 12月1日現在、嘱託指導員が2名、臨時職員6名の計8名で運営しています。

新クラブでは、嘱託指導員が3名、臨時職員7名の計10名でローテーションを組み、各部屋2名の指導員を常に配置します。

問 定員数は、どうなるのか。

答 12月1日現在の定員数は49名（うち入室52名）に対し、新クラブは70名を予定しています。

問 駐車場はどこか。

答 プール向かい側の西側大通り線に面した民有地の一部（334㎡）を借り、約8台の駐車スペースを確保する予定です。

問 工事費は。

答 軽量鉄骨造1階建て、延床面積約194㎡、附属するすべての工事を含めた金額は4762万8000円です。



新設された日出谷放課後児童クラブ

補正予算

第47号議案の一般会計

補正予算（第3回）は、歳入歳出それぞれ2460万円を追加するもので、衆議院議員選挙に係る必要経費を専決処分したものです。

問 想定していない解散総選挙の場合、ポスター掲示場の業者選定と入札方法、委託契約はどのように行ったのか。

答 128箇所のポスター掲示場すべて設置しなければならぬことから、選挙関係専門の業者に依頼しました。

問 今回の選挙費用のうち、ポスター掲示版設置等委託206万1000円と選挙用備品231万円は、

どのような手順で随意契約となったのか。

答 いずれも前回の市議会議員選挙において、入札により決まった業者1社から見積もりをとり、決裁後に発注したのですが、今後は、数社から見積りをとり、決定したいと考えます。

第46号議案の一般会計

補正予算（第4回）は、歳入歳出それぞれ2億7230万7000円を追加するもので、人件費のほか川田谷小学校の給食室整備事業が、主なものです。

問 川田谷小学校の給食室整備の工事概要は。

答 整備の場所は、校舎と体育館の間で、延床面積は約377㎡、施設は、処理室・洗浄室・調理室・配膳室などのほか、食育の勉強用の見学窓を設けます。

問 建築スケジュールは、平成25年5月中に解体し、解体後に建築工事や電気・機械設備工事等を12月

中に完了し、翌26年1月下旬から給食業務を再開する予定です。

今回の補正予算には入っていないが、25年度の補助金で太陽光発電工事を予定しています。

問 工事費用の財源は。

答 2億7850万円のうち、補助事業は3630万6000円で、残りが市の単独予算2億4219万4000円となります。

問 解体工事2760万円は高いと思うが、アスベストはないのか。

答 アスベストは給食室内部の壁と天井、外壁の屋根が石綿の含有建材となっています。

問 工事費の内訳は紛らわしいのですが、仮設工事と給食室の解体、それに代替給食を仮受けする部屋のエアコンも設置する改造工事が含まれています。

答 給食室工事の間は、給食をどうするかの。

代替給食は、検

討委員会を設置して意見を聞いており、選定業者を十数社に絞っています。

問 給食調理員は、他の学校等でシフトを調整しながら勤務していただくことを考えています。

答 350食の給食代替方針を課長決裁で決めているが、市全体に影響する内容ではないか。また、方針を決めるにあたり、弁当持参と専門業者による持参の2点を保護者にアンケートしているが、保護者の意見を求めずに、方針を決めているか。

問 指摘の通り、重要な案件なので、今後決済の方法を精査していきたいと思っています。

答 方針を決める検討委員会の中で、保護者から「試食会を開きましょう」と、意見が出ました。

今後は、多くの保護者の参加を見込んだ試食会を、開こうという方針です。

一般質問

一般質問の内容については、議員本人が編集したものです。

25年度以降の市政に対する市長の
決意について

大隅 俊和

問

市長は、数々の行政改革を進めてきた。市長が就任した平成13年当時の借金(起債)と平成23年度の起債額は幾らか。

答

また、25年度以降は、どのような事業を重点に市政を進めていくのか。大変厳しい税収状況が続いている中で、起債を少しでも減らしていこうと思いい、この10年間で約45名の職員を減らしました。

起債は、この10年間で普通会計が約89億8000万円、下水道特別会計で45億9000万円、土地開発公社で49億3千万円の減といふことで、総額185億5000万円、率にして45%の削減を行いました。平成12年度末の起債額は、約411億7000万円でしたが、平成23年度末では、約226億円程度になりました。

25年度以降の事業につ

きましては、基本的には、防災・減災を含めた安心

安全、環境エネルギー問題、子育て支援の問題を進めていきたいと思いま

す。ごみ処理の広域化の推進、駅東口の整備、新庁舎の建設、区画整理事業の完了に向けての取り組み、西側大通り線の整備道の駅の実現等取り組んでいきます。

問

市長は厳しい財政状況の中、借金的大幅削減、学校施設の耐震化を今年度で100%達成、区画整理事業では、積極的に見直し、その事業に力を入れてきました。

子育て支援では、妊産婦検診の無料化や中学生の子ども医療の無料化を実現した。

多重債務問題解決のための相談窓口の設置、税の収納率は、県内市のトップにしたことは、高く

評価したいと思う。

一方、圏央道・上尾道路開通に伴い、重要な事業が多くあります。事業を実現させるためには、

4期目を目指していかなければならぬ。

市長は4期目をどうするつもりなのか、考えを聞きたい。

答

東口の問題など重要事業実現の道筋は付けられたと思えます。種々意見はありますが、出馬しないという決定をしました。

メリットシステム
(予算編成手法)
について

問

25年度の予算編成に当たり、行財政改革の一助になる「メリットシステム」を参考にできないか。

答

さまざまな事業を行うためにもシステムをよく研究し、一層の経費削減と財源確保に努めていきます。

西中学校のかばん、部活用バッグ、靴の共通化、その他について

渡邊 光子

問

24年度の新1年生から通学かばんや靴等を学校で指定したものを買わせている。この先、全校生徒の持ち物を統一する考えか。その先の目的は何か。

答

華美で高価な物の購入を避けて学校生活を送るのにふさわしい物を全校生徒が共通して使用することにより健康で安全、規律ある生活を営むことを期し実施します。特に西中学校においては通学距離も長く、自転車通学の生徒も多い。安全面や交通マナーの面などから、背負うことのできるかばん型を指定しました。靴に関しては決

まりが曖昧であり学校生活に不向きな靴を履いてくる生徒もいます。部活動、通学、体育、授業等の観点から、学校生活を送る上で望ましい運動靴を指定しました。指定に

問

24年度の新1年生から校長が、生徒の実態を鑑み、特に生徒の規範意識の醸成という観点から、PTAの了解も得ながら実施しています。この先にある目的は、こうしたことを契機として、今後学校全体として規律ある雰囲気づくりを進め、よりよい学校環境、学習環境を整えていくための取り組みです。

問

給食費をある程度滞納している生徒には、必要保護を適用して給食費の免除をし、困窮が見られない家庭においては6カ月分の滞納において差し押さえなどの対応を求める。

答

学校給食費は法的に差し押さえ処分はできません。意図的な支払い拒否など悪質と見られるケースについては裁判所への支払い督促を行う等の方法で対応しています。

西中女子ソフトボール練習場のバックネットの新設を

問

23年9月の一般質問で、女子ソフトボール練習場のバックネットの柱全体のさびは確認されていたが、柱3本が、さびが原因で今年、道路へ倒れ柱の根っこ部分だけ改修され、バックネットは立っている。全体がさびた柱はこれからの強い北風の衝撃により途中から倒れることも予想される。生徒の安全、通行人の安全を考慮して、ボールがネットを超えないようにバックネットを今より高くするなど新設が急務だ。執行部へ、緊急な財政措置を求める。

答

老朽化し、機能も十分でないことからネットの高さを上げて防護効果を上げ、支柱も交換をして本格的な改修をするよう考えています。多額の費用を要するので、現在予算要求をしています。

「桶川市ご当地B級グルメ」 決定を急げ

保坂 輝雄

問

桶川市は、観光資源の宝庫であり、本陣、武村旅館、陸軍飛行学校若宮寮、後谷遺跡等の貴重な観光拠点が存在している。

これらの観光拠点を今後、どのように整備していくつもりか伺う。

答

桶川市内に点在している観光資源は、成り立ちや歴史的背景が違っており、これを整理した上で、観光協会と連携して、整備をしていきたいと考えます。

問

観光振興を基盤としたまちづくりを進めるにあたっては、イベントの開催と特産物、特に飲食物の提供も重要であると考えます。

昨今、B級グルメが全国的にブームであり、桶川市でもご当地B級グルメを決定するイベントを開催すれば、一石二鳥であると思うが、どうか。

答

今後、商工会や各飲食店などの関係機関と研究を重ねて検討したいと考えます。

問

改めて、ご当地B級グルメ決定を急ぐべきだと考えるが、本市の考え方を伺う。

答

商工会青年部は、ご当地B級グルメを開発し、市民まつりで出店、販売しました。今後、観光協会や商工会と連携して、支援を進めたいと考えます。

いじめアンケートについて

問

9月に実施されたいじめアンケートの結果について伺う。

答

市内小中学校約6000人に対し行った結果、約1400人の生徒が嫌な思いをした、または、近くの人を嫌な思いをした、との回答をしました。



埼玉B級ご当地グルメ王決定戦

最終的に、アンケートから6件、アンケート以外から6件の合計12件をいじめと認定しましたが、本人たちや保護者への指導によって、ほぼ解決に至っています。

問

アンケート実施の今後のスケジュールについて伺う。

答

今年度は、3学期に生徒と保護者に対し、それぞれアンケートを実施する予定です。来年度のスケジュールは、学期に1回、年3回を予定しています。

このアンケートは、いじめの把握だけではなく、親子でいじめについて考える機会をつくることも目的としています。

南小跡地を暫定的にバスや送迎車の 発着場が作れないか

白田 喜之

問

平成27年には、圏央道が開通します。この時期に合わせ、暫定的に南小跡地を中山道から道路を作り、バスや送迎車の発着場として作れないか。

答

圏央道ができれば、桶川市とつても非常に大きなインパクトがあることだと認識しています。東口についても当然、広域交通が今後で上がってくるということも踏まえた上で、駅前整備も必要だと思います。あわせて、成田に向かうバスや観光バスの発着などの需要も喚起されるので、市としても非常に期待をしています。



有効活用を要す南小跡地

ゴミ焼却場について

問

ゴミ焼却場を現在地ではなく、桶川のほかの地区にも、候補地を考えることはできないか。

答

現在地は、ご承知のとおりずっと建っており、地元から桶川市のゴミ焼却炉だけではなく、衛生組合とか下

また、南小跡地は、なるべく並行して地域の活性化に資するような跡地開発の検討も同時に進めたいので、事業の進捗に合わせて、需要を的確に捉えていきたいと考えます。

水処理場もあるということと、すべてあそこに集まってしまう。ですから、一つでもいいから、早く出て行ってくれということ、かねてからずっと言われています。そのため、現在地にずっと存続させることは難しいと思いますので、こういった形で今回も延長については、5年間という形にさせていただきました。

また、別の場所ということにつきましては、桶川の現状を考えますと、調整区域においても家がかなり点在している状況もあることから、なかなか別の場所を見つけるのになると、難しいのではないかと考えます。

駅前喫煙場の存続を

問

喫煙所を存続できないか。

答

廃止の方向でお願いします。

自殺対策について

岩崎 たかし

問 我が国の自殺者数は、1998年に3万人を超えて以来、昨年まで14年連続で年間3万人を突破し続けている。もうこのような悲劇を繰り返してはならない。

答 健康や経済問題、家庭や職場、学校の問題等、それらからのストレスに起因する諸症状があらわれた際は、みずからや周囲の人々が、その症状やサインを察知し、声かけ相談、見守りなどが大変重要になることから、行政だけでなく、身近な地域や学校、関係機関との協力や連携が不可欠なものと考えます。

問 そこで本市としての自殺総合対策の基本的な考え方を伺う。

答 埼玉県地域自殺対策緊急強化基金を活用し、市民を対象とした自殺の駆け込み寺として実績のある住職の講演会の開催や、鬱病のメカニズムをわかりやすく理解できる研修会などを、平成22年度から毎年開催をし、自殺防止に努めてきたところです。

問 地域における連携・協力の確保に

ついて伺う。

答 健康や経済問題、家庭や職場、学校の問題等、それらからのストレスに起因する諸症状があらわれた際は、みずからや周囲の人々が、その症状やサインを察知し、声かけ相談、見守りなどが大変重要になることから、行政だけでなく、身近な地域や学校、関係機関との協力や連携が不可欠なものと考えます。

問 市として、ゲートキーパー養成へ支援ができないか伺う。

答 検討します。

問 後期高齢者の医療費自己負担割合について

住民課税所得が145万円以上の場合、被保険者証の負担割合は3割だが、収入金額383万円未満などの一定条件の場合、申請により1割負担になる。

担になる。

問 そこで、申請者の通知方法とその回数を伺う。

答 対象者への通知は6月に一括して送付しています。

問 7月の時点で未申請の対象者の方につきましては、再度郵送にて案内を差し上げています。

問 お年寄りのみの世帯では、文書の通知だけだと、見落とす可能性が出る。

答 そこで電話での対応ができないか伺う。

問 個人情報である電話番号は、全てを把握しているわけではありません。

答 今後は、電話番号の判明した方については、電話連絡をしていきます。



高次脳機能障害者支援について

仲又 清美

問 高次脳機能障害とは、交通事故や脳血管疾患で、脳に損傷を受け、言語・思考・記憶等、知的な機能障害で、生活が困難な他、精神や心理面の障害で、外見上わかりづらい。本人や家族も理解できない状況もある。本市の実態は。

答 市の身体障害者手帳取得者で高次脳機能障害と思われる方や精神障害者保健福祉手帳を取得することになった方が、数名程度います。

問 市民への周知や啓発活動は。

答 手帳取得の方へ、障害者福祉の記事、県発行のリーフを窓口を設置し、周知を図っています。

問 市民への啓発活動は、

答 市民への啓発活動は、県の委託事業の「地域で共に生きるナノ」による相談会の情報を広報2月号に掲載します。

問 相談支援体制は。

答 周囲から理解しにくい障害の為、支援機関を紹介し、本人や家族との情報の共有を心がけていきます。

問 自立の支援は。

答 桶川市障害者就業支援センター、地域活動支援センター芽生えの会、相談支援センター杜の家、相談支援センターわおん等、就労・生活支援を行っています。

問 リハビリの医療機関や通所の場合は。

答 埼玉県総合リハビリテーションセンターや埼玉県指定の医療機関を通じ、言語療法士や作業療法士による訓練へつなげています。

問 若年性認知症と同様の支援、介護保険サービスと障害福祉サービスの連携はどうか。

答 障害者手帳の制度にに応じ、短期入所や障害者自立支援法による支援、介護保険サービスへの移行等、サービスが途切れないよう高齢介護課や地域包括支援センターのケースワーカーと、随時連携を図ります。

子ども子育て支援関連3法について

問 『社会保障と税の一体改革』のポイントとは、子ども子育て3法だ。新制度は、早ければ平成27年度施行となり、消費税率8%引き上げの平成26年度から保育の需要の増大等に対応する為、新制度の一部を先取りし、保育緊急確保事業が行われることになる。

答 子ども子育て支援事業計画や支援関連3法に付随する条例の制定等、関係部局と連携し、多くの施行準備事務を実施する必要がありますので、人員の増員等、調整を図っていきます。

桶川駅東口の整備と旧南小跡地には公園が必要

高野 和孝

問 駅通りと駅前広場はどうなるのか。

答 駅通りは、幅が20m、駅前広場は、幅が56m、長さが100mです。

問 国・県・市の費用負担は。

答 駅通りは20億円で、県が80%、市が20%の負担、駅前広場は14億円で、半分位が国負担、残りが市負担です。

問 移転先の確保と

出店に必要な資金の融資への支援、地域の生活者や通勤者、観光客などに魅力のあるまちづくり構想の確立を。

答 移転については、提案も含め、円滑な移転ができるよう、現地事務所の設置など体制づくりを進めます。

問 駅東側市街地の

公園は、わずか一箇所だけで、西側には西口公園をはじめ九箇所

ある。南小跡地に公園をつくってほしい。災害時の避難場所、緑と憩いの空間が街づくりには必要。

答 懇話会でもオーブンスペース、緑地などの意見も多く、良質な公共空間の提供を目指し、整備の方向性を検討していきます。

長久保踏切・川越踏切の安全対策を早期に

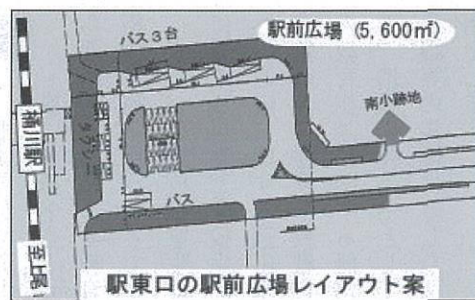
問 10月に障害者支援ボランティアが

行なった、街角ウォッチングに参加したが、車椅子の前輪が線路に挟まり危険、自転車を通る人も凹凸がひどすぎて危険、

早急に改修してほしい。

答 JRが定期点検

回のような補修要望のあった箇所は、保守点検とは別に、そのつど現地確認し、補修方法等の検討



を行い実施しています。

現在、踏み切り改修に向け、JR東日本と調整を行っています。

問 川越踏切は狭く、

水路の蓋がなく、転落事故が起きることも考えられる。ぜひ、真剣に考えてほしい。

答 道路の拡幅や信号機の移設もあり、

困難と聞いています。

問 べに花陸橋の開

通で、東側の人たちは、市役所に行くにも遠く不便で危険な踏切を通る。ぜひ、エレベーターを設置してほしい。

答 県の管理なので、県に依頼します。

子ども達の読書活動の更なる推進に向けて

新島 光明

問 子ども達の読書活動の更なる推進

を図るため、学校図書電子管理化し、市立図書館とネットワークを図り、

全ての学校の図書を児童生徒がより多く触れられる環境をつくり出すこと、併せて、先生の出動に合わせ補助員にも出勤

していただき、夏休み中の学校図書室の開放を提案する。

答 学校図書館へのシステムの導入は、

近隣の情報を得ながら、今後検討してまいりたいと思います。

また、夏休み中の学校図書室の開放は、補習学習・プール指導最終日に図書室の利用を行った学校が昨年3校ありました

が、今後このことを各学校に紹介しながら、補助員の勤務等もあわせて研究していきたいと思っています。

草が生い茂る歩道緑地部分の維持管理について

問 草の繁茂はごみ

投棄の要因にもなりやすく、歩行者の通行障害や大通りになる交差点では、左右確認にも障害となっている。

現在、毎年2回除草作業を委託しているようだが、限りある税金です。

もっと有効に活用する方法を考えていただきたい。例えば、地域の皆さんの協力をいただく道路サポート制度の普及とか、繁茂しづらくするために、

緑地帯に転圧をかけるなどを提案する。

答 財政状況等も厳

しくなっていることから、今後は更に管理コストを十分に考慮して設計すべきものと考えています。また、当面緑化しない



11月末になっても除草されず草が繁茂する上南区画整理地内の歩道緑地

箇所や植栽の内容、管理方法などについて、議員の助言もいただきながら、地元と調整をさせていただきたいと考えます。その中で、当面緑化しない植樹帯については、雑草対策として、提案の転圧する方法のほか、防霜シートや碎石、または焼却灰を敷きならす方法などいろいろありますので、今後の管理コスト削減を検討する上でも、一度部分的に試行してみても、効果を検証してみたいと考えています。

救急救命士の医療行為拡大について

江森 誠一

問

さいたま、上尾、鴻巣、桶川、北本、伊奈の6市町で、救命救急士が行うことができる医療行為の範囲拡大の実証研究が実施されていると伺っているが、県央広域消防における救急救命士の人数と、本市からは何名の救急救命士が実証研究に参加しているのか伺う。

答

埼玉県広域消防本部全体では、救急救命士は62名いますが、実証研究に参加した救急救命士は、県央広域全体で6名、そのうち桶川消防署からは2名の参加と伺っています。

問

医療行為の拡大される内容と、研究機関及びその後の検証、実施される予定時期がわかれば伺いたい。

答

医療行為の内容につきましては、血糖測定と低血糖発作症

相談所は、通常の住宅として使っていた建物を購入して、教育相談所として使用していたもので、狭隘な建物であり、老朽化もしており、不便を来していました。

移転先は、分庁舎東側の桶川市上日出谷1189の1で、新しい建物として建築します。

完成は3月中旬を予定しています。来年度4月より新しい教育センターとして、開設する予定です。

問

条例により教育センターに変更され、新たな取り組みについて内容を伺う。

答

相談員が児童生徒、徒、保護者などから面談や電話による教育相談業務を行うことです。また、不登校児童生徒

問

区画整理事業により西側大通り線の工事着手することになり、現在、桶川市下日出谷17の10にある教育相談所は移転を行うことになりました。現在の教育

通学路の安全確保について

町田 俊朗

問

平成24年5月の安全点検で、指摘の箇所、「川田谷4405番地先の上尾道路測道の交差点」の対応は。

答

優先道路の明確化を図るため、ドットラインや交差点箇所

問

県道川越栗橋線の狐塚交差点の見通しについては。

答

大宮国道事務所では、上尾道路の工事に合わせ、L字型で、事業を進めています。

問

安全確保にむけた対策を講じたが、特に西から上尾道路の下では、標識が目立たず、飛び出してしまう危険が高く、見落とし防止策を図ることが肝要では。

答

注意喚起の看板が見落としがち、との指摘に、早急に目立つ様な工夫をしていきたいと考えます。

問

具体的な時期の見通しは。

答

上尾道路は、圏央道の上尾北本インターから白岡菖蒲インター南の供用時期に合わせて、未供用区間である上尾小敷谷から桶川川田谷間を同時に開通させる予定と、聞いています。

問

また、横断歩道も同時期に完成する計画ですが、地元から強い要望もある

答

防犯、防犯の観点から、有効な対策や施策の見解を伺う。

問

防犯や防犯の観点から、有効な対策や施策の見解を伺う。

答

観の面で、非常に好ましくなく、現在全国各地で条例が制定されていますが、どのような内容とするかが課題であり、その効果も勘案し、先進地を研究し、検討していきたいと考えます。



上尾道路側と交差する川田谷 4405 付近

空き家対策について

事業の計画的な進行について

加藤 ただし

問 市庁舎建設の今後の計画的な手順について伺う。

答 平成18年の基本構想がありますが、東日本大震災の教訓を生かし、第五次総合振興計画に基づく内容に手直しする必要があります。

具体的な手順は、決定していません。

問 役割は、市民の利便性の高い施設であり、災害時の拠点としての機能を持ち、市民の協働事業が活性化できる拠点でありたい。

また、省エネ、省資源化、環境負荷低減等十分考慮した地球環境にやさしい市庁舎等、コンセプトに基づく必要があると考える。

手順では、市民の意見を聴取し、市議会を考えをまとめ、基本構想を策定し計画案を決定する。

市民のワークシヨップ等を開催し、広く市民の意見を聞き、使いやすい市庁舎を考える機会をつくる等、今後のプロセスを具体的に検討する時期に来ていると考えるがいかがか。

答 ご指摘の点等を踏まえ、具体的な事務を進めます。

桶川駅の安全性と利便性について

問 一番街通りは、送迎の車が停車している場合、車・自転車・歩行者の通行が困難で大変危険な状況である。安全対策と利便性の確保は、今後の東口整備を進める中での市の見解を伺う。

答 今後、一番街通りの安全確保のため、用地買収の過程で待機スペースとしての暫定利用を検討していきます。

問 大きな事故が起きてからでは遅いので、危険な状況を改善するため早急に計画し、一番街通りの安心・安全の確保をお願いしたい。

答 東口整備により安全性が高まると考えます。なお、今後も側溝蓋の修理等は適宜対応し、特性に合わせた整備を検討します。

桶川駅のバリアフリー計画について

問 東口・西口のバリアフリーの改善計画について伺う。

答 東口のエレベーターは東口整備の中で、早期に整備できる方策を検討し、東口・西口階段のエスカレーター設置は高齢者等の通行状況を見ながら検討します。



エスカレーター設置が望まれる駅西口

桶川市のスポーツ振興について

糸井 政樹

問 当市では、桶川市に花マラソンが、2004年開催後に中止され、また城山公園で行われていた市民体育祭も公園駐車場縮小などの理由から、各地区開催となつてしまった。全市民参加型であった体育祭が無くなったことは大変残念なことだ。

交通網の発達で当市までのアクセスは格段に良くなる。スポーツ都市宣言の当市は市民の皆様の体力向上、健康増進や親睦のため、また市外の方も越えただけのよう

答 スポーツを含めてイベントの開催は、まちの活性化に対して有効なものと認識しています。また市民が一堂に会することや、他市の方が来市していただき、

交流が深まることは大変有意義なことです。

問 川田谷総合グラウンドでは市内のグラウンドが不足している中、各連盟、協会の役員さんたちは協力し合つてグラウンドを割り振り、確保している状況だ。

しかし、グラウンドに行くと、誰も使用していないケースが多く見受けられる。いわゆる空予約だ。

答 整備にも多額な費用がかかっていることから、有効利用に向け対策を講じていただきたい。

答 25年度より新たにキャンセル待ちのシステムを導入し、使用後に利用報告書の提出を求める方向です。

これにより使用の確認とグラウンドコンディションの把握ができると考えています。

公立保育所の整備について

問 本年度オープンした日出谷保育所は明るく広いすばらしい保育環境になった。

残る3保育所も老朽化や耐震性、防災面からも早期の整備が必要であると考え、資金面、用地確保など多くの問題があると考える。

答 当市は、公立保育所の整備を、どのように順次計画しているのか伺う。

25年1月中旬に出る予定の耐震診断結果を踏まえ、他の公共施設の整備計画を考慮するとともに、平成27年度までに策定する「子ども子育て支援事業計画」の中で計画をしていきたいと考えています。

分娩施設のある産科の誘致策について

島村 美貴子

問 当市における、現状と問題点は。

答 平成23年度の出生数は573件ですが、市内には出産を取り扱う医療機関がないため、近隣の医療機関で出産している状況です。

問 上尾市の木下産婦人科クリニックが9月以降、新たな出産受け付けを見合わせるから、市民が身近に出産できる医療機関が減少し、大きな問題と受け止めています。

答 木下産婦人科での出産割合は、約半数の方です。これまでの間、産科誘致について、どういった対策を行ってきたのか。

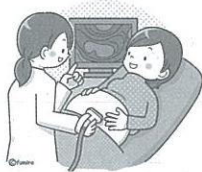
問 市内で産科がなくなった時期は、6、7年前からです。この間、地区医師会や管内の病院との会議でも、相談していますが、労働条

件の厳しさや訴訟リスクの高さから、産科医が減少しているため、厳しい状況が続いています。

問 産科誘致のため、開業費用を助成する自治体もあるが、助成の考えは。

答 そもそも産科医が不足しているため、国を挙げて、産科医の状況を、解決していくよう、要望していきます。

問 鴨川保育所近く市道4046号線の安全対策



見通しが悪い箇所が多く、東西からの通行や県道川越栗橋線の工事等で周辺道路が混雑し、抜け道として利用されている。今後の安

全対策は。また、市道4046号線と駅西口に通じる県道さいたま鴻巣線の交差点の朝夕の渋滞対策について伺う。

答 川越栗橋線の拡幅工事は25年夏頃、西側大通り線は26年夏頃を開通目標に工事を進めています。

問 完成後は、4046号線を介して、上尾方面や国道17号方面へ通過する車両が西側大通り線を通行すると考えられ、4046号線の交通量は減少に向かうと考えています。それまでの間は、道路の安全点検や見通しが悪い交差点へのカーブミラー設置などに取り組んでいきます。

問 県道と西側大通り線、4046号線の交差点の形状は。

答 このままでは5差路の交差点となり、危険なため、市道4046号線の終点を西方向に曲げ、新しい交差点の北側で、西側大通り線に接続するように、付け替える計画です。

障害のある方に対する医療費窓口立て替え払いについて

障害のある方に対する医療費窓口立て替え払いについて

相馬 正人

問 年金での生活者も多く、医療費を

答 立てかえることが難しく、病院に通えない状況の方がいるので、現在の申請方法にかわる手段等の考えを伺う。

問 障害のある方への経済的支援については、障害者手帳所持により、所得税や市民税等の控除や障害年金のほか、特別障害者手当や重度手当など、程度に応じ、さまざまな支援を行っています。

答 一時的なお金がなく、病院に通えずにいる方が実際にいる、もう少しその方の立場というか、本当に自分がその立場になったらどうなのだろうという気になって、真剣に相談に乗っていただけないか。

問 現行制度では一時的に支払うことになり、重ねて

ご理解をお願いします。

問 なお、その方の状況によりましては、他の制度の利用ということも十分考えられますので、一度担当課の窓口でご相談いただければと思います。

湧き水の保存について

問 坂田西区画整理地内の公園予定地において、清水の湧き出ている場所があるので、今後対策を含めた有効活用の方法は、どのように考えているか。

答 坂田西土地地区画整理事業地内で公園予定地となっている場所につきましては、谷地状の地形になっており、周辺には樹木がかなり生い茂っています。

問 このため、樹林地を中心に浸透したと思われる雨水が公園予定地の北側



湧き水がある坂田西区画整理の公園予定地

の区画整理事業区域境から湧き水として湧出しており、水路を通じて区域外へと流れています。

公園の整備工事は、今後坂田西土地地区画整理組合による公園用地の確保、周辺道路等の基盤整備が完了し、周辺宅地開発が一定程度進捗した段階で、市が実施することとなっています。

この湧き水の活用については、今後湧出量、安全性、衛生面の観察を組合に依頼し、その状況を踏まえ、公園の整備計画策定の中で検討していきたいと考えています。

エネルギー対策室の設置について

佐藤 洋

問

牛久市は関東の中でも菜の花80の栽培やバイオマス、そして市民の方々、特に商工会等が中心になってエコ祭りみたいなものも展開しながら、全庁的な形で、エネルギー対策室を3名の職員で設置をして実施している。

ちなみに、原発の関係のいわゆる対策室も牛久はつくっている。

そのことは、ある意味では時代の流れみたいなものにあわせて、非常に機敏な組織体制をもって課題に取り組むような体制が牛久市では見られる。新しい組織に向けてエネルギー対策室的なものをつくっていただけるかどうか問う。

答

今こそ地方分権で、各市町村でやるべきことが大切なのだということ、総合対策的なものが必要であると

国の方針を変えるぐらい

やたらどうかという話で、佐藤議員の意図する

新組織に対する熱意は十分に伝わったところでありまして、受け止めています。こういった中でも

今後のエネルギー対策の充実を図る上では、部門に特化した新たな施設の

対応など、その必要性については十分認識をしています。先ほど提案があり

りました、全庁的に対する現体制におきましても

本市の地域の特性を生かした後谷調整池のメガソーラー発電事業の実施など、エネルギー対策につ

いては一定の成果を上げてきつつあると、考えています。

下校時の防災無線について

問

下校時の防災無線での現状と各小

学校持ち回りにより、児童による放送ができないか、実験的にどのような形で実施できるか考えを伺う。

答

下校時の防災無線放送は、来年2月に1カ月間児童の声を録音したものを試験放送したいと思っています。

現在は下校の見守り、夕方に子供たちの帰宅を呼びかける放送内容をしており、まずは児童の声を使って、放送したいと考えています。

今後、保護者や市民の反応なども伺い、効果や課題などを整理し、7月から実施に向け検討したいと思っています。

児童から防災無線で見守りの呼びかけを



学校給食の問題と改善策について

永野 朋子

問

9月議会で指摘した問題について、その後の調査と対応は、運営組織における責任の所在や基準が不明確な点など、いくつか改善すべきと考え、学校給食委員会に、課題と方針を周知しました。

答

毎日暑くても寒くても、汁物メニューにも牛乳が付き、飲めずに残る仕組みだ。私が調査した結果、廃棄総数は4万7816本分。値上げ理由にお金が足りないと言いつつこの費用はどう考えたのか。また、なぜ学校ごとの廃棄量に大きな差があるのか。献立、調理方法も違う。デザート回数、品目も大きな差があり公平でない。

問

汁物の時の牛乳は今後検討します。残滓は少なくなる様、指導します。デザートは、学校により、人数と予算

答

桶川駅のバリアフリー化を早急に

	牛乳廃棄総数	1人当り廃棄数	概算人数
日出谷小	12574本	24本	516人
西小	14385本	19本	747人
川田谷小	2952本	6本	463人
朝日小	4237本	7本	613人
桶川小	4154本	5本	875人
東小	6657本	9本	755人
加納小	2857本	7本	436人
総数	47816本		

1年間の小学校別牛乳廃棄の比較表

問

の関係で差が生じます。学校ごとの格差を生じさせない為に、公費負担の考えは、給食費の不平等はある程度前提としており、工夫していき

答

ますが、公費負担の検討は考えていません。

問

置と、マインへの階段のスロープ化の考えは。エレベーターは必要性を十分に認識している、東口整備事業の中で設置します。マインに入る階段は今後東武ストアと協議します。

答

整備されるまで、買物に困難な方を放置していいのか。バリアフリー法、障害者基本法に則り答えて頂きたい。また、今年度エスカレーター管理委託費予算を3.2倍も増やし860万円とした。費用面で考えれば、設置可能ではないか。

答

駅周辺のバリアフリー化は、多くの方々が利用する場所であることから、着実に対策を講じる必要があると認識しています。マインへのスロープ化は東武の管理なので、対策を協議させていただきたい。

買物弱者に対しては、居宅介護によるホームヘルパーの買物依頼、移送サービス、杜協の家事援助などで対応しています。

問

高齡化に伴い、「買物難民」の切実な声にどう応えるのか。東口のエレベーター設

学校給食改善の報告を

北村 あやこ

問

給食の問題点を
まとめ、教育委員

会に改善要望書を出した。
同じ給食費でカロリー
や量が違う、加工食品の
とりすぎ、いい加減な物
資選定基準、牛乳廃棄と
残飯の多さ、公社委託の
偽装請負で責任が不明瞭、
会計元帳の不存在など12
項目の検討内容は。

答

多くの指摘事項
の調査検証を行い、
責任の所在、選定基準見
直しの必要性を認識しま
した。学校給食運営委員
会に第三者委員を入れ、
保護者の意見を反映する
運営など、課題と見直し
方針を協議しています。

問

異物混入防止、牛乳や
残滓の減少、食育指導の
徹底などは、すぐ改善し、
調理手順の見直しや食事
指導を徹底しました。

前議会の質問で、
なぜ塩素混入が起
きたのか、報告を。

答

給食のテーブル
等を拭くための、
塩素につけたぞうきんを
棚の上にかけておいたら
酢の容器のへりに落ちて
しまったということです。
そのようなぞうきんは、
すぐ他の場所に持ってい
くよう対応をしました。



お詫と訂正

前号カットで給食の
塩素混入ミスのメモは、
日出谷小ではなく、西
小の誤りでした。市からの情報公開
資料の提供が混在したためのミスで
す。日出谷小の関係者には迷惑を
かけました。お詫びして訂正します。
この学校でおきたかという点ではな
く、システムの改善のための実例として取
り上げましたので、ご理解をお願いします。

入札改革全国8割以下 の桶川市

問

財務省のホーム
ページ、法に基づ
く入札適正化の状況では、
指名基準・指名理由・随
意契約の選定理由の公表
を全国の8割の自治体が
実施しているが、桶川市

答

は全部ない。オープンな
政治をなぜやらないのか。
「公共工事の入
札及び適正化の促
進に関する法律」で規定
する内容は、透明性の確
保の観点で、できるだけ
公表していきたいと思っ
ます。

問

上日出谷南土地区画整
理事業の違法な運営を
どうするのか

答

資金転がしや預
金台帳・現金出納
帳などがない、公文書の
偽造、理事会承認のない
工事、多くの工事で、し
ゅん工検査が行われなか
った実態、交際費や会議
費の飲食三昧などを市長
はどう考えるのか。
今までいろんな
指摘を受けてきま
した。市だけではなく組
合員、役員も、きちっと
受けとめて反省し、改善
をして、一日も早く公明
正大に区画整理事業が進
行できるように、これか
ら職員を指導していき
たいと思います。

= お知らせ =

桶川市議会ホームページを更新しました

桶川市議会では、議会に関する情報や定例会・委員会の会議録などホームページを開設して公開しています。

今回、さらに「見やすく」「分かりやすく」するため、桶川市議会のトップページを初め、市議会会議録検索ページなどを更新しましたので、ご覧ください。

桶川市議会ホームページアドレス

<http://www.city.okegawa.lg.jp/gikai/index.html>

有志による議員連盟が発足

動物の命を尊び、飼い主のモラルの向上や人と動物が安心して共生できる社会を推進することを目的とした、『桶川市議会 動物と共生する社会を推進する議員連盟』が、桶川市議会議員16名の有志により発足しました。

今後、目的達成のため調査・研究していきます。

12月議会傍聴者数

月 日	男	女	計
12/3	0	1	1
12/12	10	8	18
12/13	9	2	11
12/14	4	0	4
12/17	9	5	14
12/19	3	1	4
合 計	35	17	52

定例会のお知らせ

3月定例会は、2月19日から開催される予定です。

議会を傍聴しましょう。

※ただし、市の行事などにより変更となる場合があります。

声の市議会だよりのご利用を

桶川市議会では、「声の市議会だより」をボランティアの協力により作成しています。

利用を希望の方は、議会事務局までご連絡ください。

委員会報告

決算特別委員会

平成24年9月定例会（本会議）において、第35号議案の一般会計から第39号議案までの各特別会計

の歳入歳出決算の認定にあたり、委員7人で構成する決算特別委員会が設置されました。特別委員会は、平成24年9月12日から10月22日まで5回審議を行い、執行部に対し、次の10項目を指摘・要望しました。

指摘事項

- 1 駅西口地下駐車場は、別の活用も含めて検討する。
- 2 公民館の老朽化に対し、市民の利便性及び利用率向上の観点から、整備を図る。
- 3 決算概要書は、決算書とリンクした形式にする。
- 4 市民ホールの行政財産使用料は、文化施設として広く公的に意味のある事業に検討する。
- 5 協働事業の推進には、基盤となる条例整備を早期に進める。
- 6 防災行政無線を補完する取組みを検討する。
- 7 環境測定調査委託は、大規模道路に伴う道路整備等、環境変化に伴う測定箇所を検討する。
- 8 子どもの放課後の居場所として、核となる拠点を東西に整備する。
- 9 中学校にのみ配置している、さわやか相談員の新設、増員。
- 10 ラスパイレス指数が100%を超えているので、年齢構成と職員配置を適正に行う。
- 11 老朽化施設の更新及び公共施設の更新を計画的に行う。

総務常任委員会

10月23日 静岡県静岡市の「協働のまちづくり（市民活動に対する支援等）」について」を視察しました。

平成17年に「静岡市自治基本条例」19年に「市民活動の促進に関する条例」が制定され、主体的で活発な活動と、市民の意見を反映した取り組みが行われていました。

また、自由な発想で提案する「協働市場」を創設し、行政ではできないアイデアでパイロット事業に取り組んでいました。さらには活動拠点として、情報交換スペースや会議室、貸事務所などを備えた市民活動センターを市内2カ所に設置し、NPO法人やボランティア団体などが活発に活動していました。

本市でも、今年度から「協働のまちづくり支援事業」を始めましたが、

単なる補助に終わることなく、早期の条例制定、活動拠点の設置を要望しました。



視察した番町市民活動センター

10月24日 三重県松阪市の「入札制度について」を視察しました。

平成13年から入札制度改革に取り組んでおり、郵便入札を経て、電子入札システム導入の結果、高水準で推移していた落札率を低下させ、5年間で77億円もの工事等の入札差金を生み出すなど大きな成果をあげています。また、5名の学識経験者からなる入札等監視委員会を設置し、意見具申などによる改革も常に行っています。

ホームページなどを活用した情報公開も積極的に行い、透明性の確保に

努めています。

本市でも、入札制度改革に早期に着手するとともに、市内業者育成のシステムの構築、予定価格決定方法などの情報公開を取り組むべき課題として要望しました。

民生経済常任委員会

10月10日 栃木県宇都宮市の「自転車のまち宇都宮の推進」を視察しました。

特徴として、
①自転車走行空間の整備として、75の「自転車ネットワーク路線」を設定、自転車交通量から16の「優先整備路線」を整備。
②市営駐車場では一部の放置自転車を活用し、貸出。どの場所でも返却が可能。

③市内のホテル6箇所ですべて宿泊者を対象に、無料で自転車を貸し出す「おもてなしレンタサイクル」事業を実施。
④駅前「宮CYCLEステーション」で、スポーツタ

イプの自転車を貸し出すほか、休憩スペースなど無料で利用が可能。

⑤バス停留所付近の駐輪場を整備し、自転車から路線バスへの乗り換えができる、などです。

本市でも、市営駐輪場の空きスペースや放置自転車の活用など今後の「まちづくり」に活かされるよう要望しました。

10月10日 埼玉県東松山市の「東松山駅周辺整備事業」を視察しました。

特徴として、
①東松山駅前広場の整備開発、東松山市ステーションビルの整備。
②駅周辺の道路整備として、県道及び市道の拡幅、電線の地中化、歩道の段差を解消したバリアフリー化の実施。

③民間開発事業として、店舗併用共同住宅13階建て「ハイムグランデ東松山」が駅とペDESTリアンデッキで結ばれているなどです。

分譲住戸3階以上90戸は完売していますが、

1、2階は商業施設となっており、2階は1店舗しか入店しておらず、課題となっています。現在、市民課証明窓口と子育て支援センターなどの行政施設が一部入居しています。

本市でも、まちの活性化につながる駅東口開発の一層の推進を要望しました。



整備された東松山駅前東口

建設文教常任委員会

10月16日 宮城県栗原市

市の『東日本大震災による被害及び復旧の状況について』を視察しました。

栗原市は、下水道施設の被害で、水洗の全戸（約1万1000帯）が影響を受け、昨年8月末現在の復旧割合は45.6%です。被害額は

47億2500万円で、完全復旧の予定は平成25年度末です。

仮設トイレは、市内に工場があったことから緊急に確保し、31カ所に127基設置しました。費用は、レンタル代・設置・回収運搬・くみ取り収集等で約270万円でした。

地元の建設業協会との協定で、仮設トイレの運搬設置への協力や道路等の応急復旧に対応していただいたとのことです。

学校施設・社会教育施設は、新築が必要な学校1校を除いて復旧完了とのことです。復旧費用は約27億4000万円で、事業費の84%が国から補助されます。



道路復旧状況「震度7東日本大震災 一栗原市の記録より」

10月17日 岩手県一関市の『地域新エネルギービ

ジョンについて』を視察しました。

一関市では平成22年に環境にやさしい新エネルギーの導入の、基本方針や重点プロジェクトを策定し、すべての市民・事業者・行政が協働して取り組み、概ね10年間で導入を目指しています。

住宅用太陽光発電システムの導入は3000戸を目標に、市長みずから、新築物件への導入を呼び掛けているそうです。

また、小中学校等の公共施設10カ所に合計出力110.1kWの太陽光発電を設置し、平成25年には市立図書館に150kWの太陽光発電を導入予定です

議会運営委員会

11月7日 三重県鳥羽市

市議会・8日 四日市市議会の「議会基本条例及び議会改革への取り組みについて」視察しました。

鳥羽市議会基本条例は、平成21年正副議長の就任

を機に、条例制定に真剣に会議を重ね、平成23年4月1日から施行しています。

議会改革では

①予算・決算は、議長を除く議員全員で構成する常任委員会を設置。
②議会報告会で、市民との意見交換会を実施。
③市長に政策形成過程の説明を求める事項を定めた。

④地方自治法第96条第2項に基づく、議決事件について定めたなど、積極的に取り組んでいました。

四日市市議会基本条例は、平成23年5月1日から施行しています。特徴として、議会のあ

るべき姿を

①市民との情報共有。
②市民参加の推進。
③議員間討議の活性化の3本を基本方針とし、

④通年議会を導入。
⑤反問権、文書質問の取り入れなど、新たな取組みも行っていました。

今後、桶川市議会においても、視察内容を参考

に議会改革を推進します。

議会だより編集委員会

10月18日 滋賀県大津市

市議会・19日 近江八幡市議会の議会報について視察しました。

大津市議会報は、平成23年度中核市議会議長会総会の「第6回議会報コンクール」において、優秀賞を受賞し、毎年紙面の改善を行い、見やすさや読みやすさを追求しています。



近江八幡市議会報は、議会改革にあわせ、議会報告会などを積極的に広報し、親しみやすい議会報になるような取り組みをしています。

今後、桶川市議会報も改善に努めます。

編集後記

12月定例会では、議員19人中17人の議員が一般質問を行いました。この議会だよりでは掲載されませんが、市民の皆様におかれては、図書館等に蔵書している「桶川市議会会議録」を参照していただければ幸いです。また、議会を傍聴されたことのない皆様、ぜひ一度傍聴してみませんか。議会は、3月・6月・9月・12月の年4回開催される定例会があり、定例会ごとに提案される議案の審議のほか、議員個々による、市民生活から、市庁舎建設など、市政全般にわたる一般質問がされますので、ご覧ください。（白田）

議会だより編集委員会

委員長	永野 朋子
副委員長	北村 文子
委員	江森 誠一
委員	加藤 正志
委員	白田 喜之
委員	保坂 輝雄
委員	島村美貴子
委員	市川 幸三